

## にのみやじんじゃほんでん 二宮神社本殿

### 県指定有形文化財（建造物）

宮内熊野大社は、熊野三所権現さんしょごんげんとも言いました。そのため拝殿の後ろには、お宮が3つ並んでいます。向かって左から三の宮、本殿、二の宮です。

二の宮は二宮神社、または若王子じゃくおうじと言います。祭神は伊弉諾尊さいじん いざなぎのみことです。社殿の構造は、一間社いっけんしゃながれづくり 銅版葺どうばんぶき、素木造しらきづくりで、社殿正面のかえるまた 龕かえるまた股かえるまたという部分には沢瀉おもだか（植物の一種）と鶉うずらが透彫すかしぼりされており、建造時期は室町時代末頃と推定されています。建築様式は、総体的にも室町時代の様式を伝える数少ない遺構いこうとされ、県指定文化財となっています。

室町時代末頃の建造であれば建造から500年程度経過しており、これまで、何度も大修理がなされてきたことでしょう。嘉永5（1852）年に、二の宮が大破したので再建したいと米沢藩の役所に願った記録が残っています。修理費用は、町の人に寄付をお願いし、役所には、「柱15本を下さい」と要望しました。

しかし、翌年は大干ばつのため修理を取り止め、慶応2（1866）年に、「今度は、百両をみんなで出し合って再建したいので、協力してほしい」と、村々の肝煎きもいり（村長）たちに頼んでいます。この時に修理されたものが、現在の社殿かと思われます。

熊野大社にはたくさんの文化財がありますが、それらは二宮神社再建の例のように、北条郷の人々の協力があって守られてきたのです。



南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二  
平成29年4月1日号 市報なんよう掲載